第32回日本認知症学会学術集会
アフタヌーンセミナー1

治療につなげる画像検査活用術

座　長

古川 芳明先生　順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター 脳神経内科

演題・演者

認知症治療につなげる画像検査活用術

和田 健二先生　鳥取大学医学部脳神経科学講座 脳神経内科分野

日時 2013年 11月8日（金） 15:00～16:00

会場 第3会場 キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）
3F「国際会議室」
〒390-0311 長野県松本市水汲69-2

共 催：第32回日本認知症学会学術集会
富士フイルムRIファーマ株式会社
後 援：日本脳神経核医学研究会

JCNN

FUJIFILM
富士フイルム RIファーマ株式会社

第32回日本認知症学会学術集会 アフタヌーンセミナー1

日時 2013年 11月8日(金) 15:00~16:00　会場 第3会場 キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）3F「国際会議室」
〒390-0311 長野県松本市水汲69-2

認知症治療につなげる画像検査活用術

和田 健二 先生　鳥取大学医学部脳神経科学講座 脳神経内科分野

我が国における認知症者数は400万人を超え，今後も増加が見込まれている．「認知症になっても本人の意思が尊重され，できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目標に認知症施策推進５か年計画（オレンジプラン）が計画され，認知症の早期診断・早期対応の重要性が高まっている．認知症にはアルツハイマー型認知症の他にも種々の疾患が含まれる．それぞれの疾患により臨床経過や治療反応性も異なるため，日常診療においては認知症である診断に留まらず，その原因疾患の診断まで行うことが重要である．認知症の診断においては，十分な時間をかけた問診や診察が基本であるが，独居の症例や情報提供者が高齢である症例においては症状や生活状況を十分に聴取できないケースがある．また，軽度認知障害の段階で受診の場合，診察や問診だけでは診断や治療の是非が判断し難い場合がある．このような中，頭部MRI，脳血流シンチグラフィーおよびMIBG心筋シンチグラフィー検査などの画像検査は診療に有益な情報を提供する補助診断法として活用が期待される．本セミナーにおいては，日常診療で経験した症例を中心に認知症における画像検査の意義について概説したい．

About JCNN　日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていきたいと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧下さい。　http://www2.convention.co.jp/jcnn/

日本脳神経核医学研究会事務局
〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F 日本コンベンションサービス株式会社内
Tel:03-3508-1278　Fax:03-3508-1302　E-mail:infojcnn@convention.co.jp

JCNN